

マリンバで平和を奏でる広島ジュニアマリンバアンサンブル

レポーター ひろ記者 日高優子、津森正裕、高村秀樹

広島ジュニアマリンバアンサンブルは浅田三恵子先生により1991年結成。

マリンバを広めたいと思い演奏活動を開始。当時は、「平和へ」の意識はなかったが、「世界の市長と市民の集い」での演奏を機に、世界の市長より「私の国にも来て演奏してほしい」と声をかけてもらった。

各国に演奏へ行くと聞かれるのは「広島原爆について」。改めて「広島」や「平和」について考えながら、マリンバの演奏を通じて世界に友達ができれば、友達のいる国を攻撃することはないはず。

言葉が通じなくても抱き合っただけで笑顔になる子どもたちの姿をみて、マリンバの演奏活動に「平和への願い」を込める。現在は、小学1年生～高校2年生まで16名が所属。

演奏するメンバーも平和への願いは強い。「平和の価値観は違っても、私たちの演奏を聴いて優しい気持ちになってくれたら、平和ではないか。」「戦渦では演奏はできない。演奏できる環境があるということも平和ではないか。」とそれぞれが平和を胸に演奏をする。

昨年は、ウクライナの事を思い演奏することが多かった。それまでは、「戦争なんて、もうないんじゃないかな」と思っていました。



▲(左)上田蒼馬さん(右)東野真梨絵さん

しかし、戦争は本当にあるということを目の当たりにした。ウクライナの曲を演奏するときは、乗せる想いがやはり特別なものだった。

「私たちはマリンバの演奏を通じて、スポーツでも音楽でもなんでも人と関わることが大切ではないか。人と関わって揉めることがあっても、人と関わることで平和を考える機会がある。」と熱い想いを語ってくれた。

演奏スケジュール・演奏依頼・加入方法などは、HP (<http://marimba.hiroshima.jp/>) をご覧ください。

7月29日(土)に「広島ジュニアマリンバアンサンブルコンサートVol.32」開催!! (情報の森P11参照)

編集を終えて

5月に広島サミットが開催されます。平和を願う「広島ジュニアマリンバアンサンブル」にサミットで是非とも演奏して欲しいなと思いました。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



▲(左)浅田先生(中)村田穂凜さん(右)村田和凜さん

らしくコラム

Rashikku column

「平和」の小さくて大きな一歩

「平和って何?」、子どもたちからそんな素朴な疑問をぶつけられたとき、どんなふうに感じるだろうか。我々大人は、時に、子どもたちから何気なく発せられる問いの深さにはとささせられ、しばし立ち止まって考えさせられることがある。多様性を互いに認め合う共生社会の実現が掲げられ、それが強く希求されながらも、現実には、未だ妥協点を見出すことのできない価値対立や、それにとまどう紛争が生じているこの世の中において、未来の社会の担い手たる子どもたちに、我々大人は、何を伝えることができるのだろうか。

たとえ親子でも、家族でも、そして、どんなに幼くとも、我々は、ひとりひとり異なる思いや考え、価値観をもった「ひとりの人間」である。血のつながりや同居の有無によらず、その「個」と「個」が互いに理解し合おうとするときには、コミュニケーションが不可欠である。そして、近い関係であればあるほど、「伝わったはず」や「伝えたつもり」、あるいは「わかったつもり(だった)」に注意が必要となる。自分たちの関係性なら「このくらい言わなくてもわかるだろう」と踏んでいたことが、実際にはまるでわかってもらえていなかったという残念な経験をしたことはないだろうか。また、言葉を用いたコミュニケーションにおいては、「言った」からといって、必ずしも自分が意図したように「伝わった」とは限らないことに留意が必要である。さらに、人間は、互いに、自分の心の中をいつもまるごと言葉にして伝えているわけではない。発せられた言葉の背後に、わかってほしい本音の言葉(真意)が隠れていることがしばしばあり、互いにその言葉にしていない真意に気づけなかったりそれを

読み違ったりすることで、誤解や行き違いが生じてしまう。それは、親子でも例外ではないし、言葉で伝える力が未熟な幼い子どもの場合には、なおさら注意が必要となる。時に激しい怒りの表出が、深い傷つきや心の痛みを表していることがあるように、発せられた言葉の表面的な意味のみに反応するのはなく、言葉にはできなかった真意に寄り添い、応えていく姿勢が重要になるだろう。

「平和って何?」そうたずねられたときも、とっさに気の利いた答えを返すよりも、子どもの年齢に応じた、率直で真に心の通う親子の対話こそが重要であり、それは、いずれその子が自分で「平和」のイメージを確立していくための足場になっていくだろう。まずは社会を構成する最小単位としての「家庭」から、最も身近な他者である家族同士がそれぞれの価値観を真に理解し、互いに認め合う関係を築くことができれば、我々は、「平和」の小さくて大きな第一歩を踏み出せるのかもしれない。



Profile

広島女学院大学
人間生活学部児童教育学科 准教授
加藤 美帆

広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。博士(教育学)。専門は、教育心理学、発達心理学。日本ホスピタリティ教育研究所理事。

ようこそ! 公民館へ

～安佐北区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 白木健康麻雀同好会

白木公民館

白木健康麻雀同好会は、平成31年(2019年)4月にスタートしました。毎月第2、第4木曜日午後1時～4時に活動しています。

麻雀は囲碁、将棋と違い強いものが勝つとは限らないところに面白さがあります。指も脳もフル回転してその日ごとの優勝カップを競い、4月から翌年3月末までの24回のスコアを集計して年間MVP賞獲得にしのぎを削っています。全くの初心者から参加した方も今では既経験者と負けず劣らず勝負出来ています。

会が発足してから4年が経ちました。途中、公民館の改修工事、コロナの感染拡大で中止や別会場での活動を余儀なくされましたが、現在は男性6名、女性2名計8名が2テーブルで活動しています。公民館には3テーブルのセットがあり12名程度が参加可能です。

老若男女、初心者、経験者どなたでも大歓迎です。他地域では参加者の60%以上が女性と聞いています。会費は300円/月程度、適時に徴収しています。

和気あいあい楽しいおしゃべりありの会です。どうぞご参加くださいますようお願い致します。自然いっぱい白木でお待ちしております。



2 花やか高陽

高陽公民館

毎週月曜日を活動日として、高陽公民館敷地内の花壇の手入れや、季節に応じた花々をプランターに植え、玄関前の階段や施設周辺に設置しています。

また、公民館と共催して、寄せ植え講座なども開催しています。

草花の生育の過程を身近に観察でき、水やりや草取りなどの手入れをした成果を実感できることや、自宅で植物の栽培がなかなかできない方も、公民館で花壇の世話をすることでそのストレスを解消で

きること、屋外の作業のため、意図しなくても運動が健康的であること、新たな仲間づくりができることなど、たくさん魅力を感じています。

また、花壇を見て、喜んでくださる方が多くおられることから、微力ながら地域の皆様への貢献ができていますと実感しています。

毎年、公民館西館の和室前に、あさがおやオーシャンブルーなど、植物を変えながら緑のカーテンを設置していますが、2020年には広島市の第12回緑のカーテンコンクールの団体の部で優秀賞を受賞し、私たちの日頃の活動の励みとなっています。

植物の好きな方、私たちと一緒に活動してみませんか。



3 How are you?

倉掛公民館

英会話教室「How are you?」は、25年以上の歴史があります。現在の会員は、男性4名、女性8名です。

講師は歴代、近隣にあるHIS(広島インターナショナルスクール)に所属している外国の方にお願いしています。現在は、ジョン・レリンさん(70歳)で、気の優しいアメリカ人です。彼は、活動中、絶対に日本語を話さず、それが私たちのレベルアップにつながっています。

私は、今年86歳ですが、陸上自衛隊を定年退職するまで英会話とは無縁でした。それがどうでしょう?この教室のお陰で、平成11年からは、東南アジアでの国際ボランティア活動などに6回も参加するまでになったのです。

活動の内容は、決してレベルが高いものではなく、講師のスピーチを聞いた後に、各自が予習してきた身近な話題を発表するなどして、楽しみながら英会話を学んでいます。

また、定期的にお花見会やクリスマス会などを開催し、会員間の親睦を深めています。教室の見学も大歓迎です。皆さん、お待ちしております。活動日:毎週木曜日 午後1時～3時



4 三入詩吟同好会

三入公民館

三入詩吟同好会は、1986年に設立し、現在も毎週金曜日午後1時～3時三入公民館で元気に活動しています。

詩吟は、活動的(意識的)呼吸により肺活量を

大きくし、肺の働きを良くします。詩吟特有の呼吸現象が、横隔膜や呼吸筋を機械的に動員し、加齢に伴う肺活量の低下を防止します。さらに、詩歌に親しむ事により正確な文字や美しい言葉を覚え、歴史や文化の教養が豊かになり、生活にうらおいが満ちてきます。

毎週公民館で、会員で交流しながら、楽しく元気に、みんなで学習しています。

公民館まつりや区民文化センターや地域のイベントに参加し、地域交流や詩吟の普及活動しております。ここ数年は、コロナ禍で、活動が出来ない時期もありましたが、ようやく継続的に活動出来るようになり嬉しく思っています。興味のある方もない方も、ぜひ一度、見学にお越しください。初心者、経験者共に歓迎します。



5 金亀の里花いっぱいボランティアグループ

亀山公民館

「金亀の里花いっぱいボランティアグループ」は、平成11年(1999年)4月に設立し24年目を迎えました。

毎月第1水曜日の午前9時半から12時まで、公民館の花壇などを利用して季節ごとにさまざまな美しい花を植え、水やり、落花や枯花の処理まで植物を栽培するために必要な一連の活動を行っています。

昨年は、ジニアヤパンジーなどの花を植え、公民館をとともきれいに彩ることができました。

令和3年には、これらの亀山公民館に対する美化整備活動を長きにわたり努めたとして、広島市文化財団から感謝状を授与していただきました。

来館者のみなさんにきれいな花を見ていただき、「きれいですね」「素敵です」などと言っていたのがとても嬉しいです。

これからも花を通して地域に少しでも貢献していきたいと考えています。

何かを始めようと思っている方、花が好きな方と一緒に花作りをしてみませんか。老若男女、経験者未経験者問わずメンバー大募集中です。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 白木公民館 …………… ☎082-828-0753
- ② 高陽公民館 …………… ☎082-842-1125
- ③ 倉掛公民館 …………… ☎082-845-1710
- ④ 三入公民館 …………… ☎082-818-1418
- ⑤ 亀山公民館 …………… ☎082-815-1830

名人宝人 達人

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

子育て支援・中高齢者の健康生きがいづくり支援 **山崎 勇三さん**

地域活動をサポートし

中高齢者の生きがいづくり、地域づくりに取り組む

長年のレクリエーション活動で学んだ地域活動の経験を生かし、子育て支援、中高齢者の健康生きがいづくり、まちづくりなどの活動を続けている山崎勇三さん。

山崎さんは30年ほど前の福岡での単身赴任生活時に、「福岡県レクリエーション協会」に携わっていた知人の手伝いがきっかけで、自らもレクリエーション活動に興味を持つようになったそうです。その後、10年の福岡生活を終え50代で広島に戻った後、「広島県レクリエーション協会」に参加し、活動を本格的にはじめます。さらに、福岡で学んだ経験を生かそうと「広島余暇会」を発足。子育て支援、中高齢者の健康生きがいづくり支援、まちづくりを3本柱に講演活動等続け、平成12年に人材バンクに登録し、現在では、広島市内のほとんどの公民館での講演経験があるそうです。

「わかりやすく、楽しく、面白くをモットーに、今は孫育てを中心に講座を開いています。孫育てと言っていますが、自分の孫ではなく、地域の子どもたちとの交流がメインです。また、仕事から退き、時間に余裕がある高齢者に、地域交流するための秘訣などを教え、地域の人気者になってもらうことも目的にしています。共働きでなかなか子どもの面倒を見られない人の応援や、子どもたちへ生活の知恵を授けるなどの活動は、高齢者にとって自らの生きがい、健康づくりにも繋がっています」と山崎さん。

活動は、単なる座学だけでなく、ワークショップやプレイパーク作り、公園で遊ぶネイチャーゲームのモルック、クップといったニュースポーツも積極的に取り入れて、世代を超えた地域交流



▲講演会の様子

や、親子のコミュニケーション作りにも力を入れています。

平成23年には、地域の子育て応援団作りを目的に「一般社団法人孫育て検定協会」を立ち上げ、広島はもちろん、全国での講演活動も行っています。

また山崎さんは、温泉入浴指導員の資格も保有。全国3,000カ所近くある温泉の、およそ8割の入浴経験があるそうで、その資格を生かし地域の高齢者に、温泉の楽しみ方を伝えるなど、講演依頼先からの要望に応じ、多彩な講演活動を続けています。「新型コロナウイルス感染症拡大前は、年間100回近くの講演を行っていましたが、感染症拡大後は減少しました。しかし、ここ最近は月数回の公民館での直接講演に加えて、オンラインZoomを使ったリモートでの講演活動も増えてきました。地域の子どもを育てるのは、地域の高齢者の役目だと思うので、これからも自分が学んだことを地域活動に生かしていければ」と、活動のやりがいを力強く話してくれました。



▲山崎勇三さん



▲ニュースポーツ「モルック」の様子



▲ニュースポーツ「クップ」を楽しむ親子

まちづくりボランティア人材バンク登録者交流会「広げていこう活動の輪」

まちづくりボランティア人材バンク交流会が始まって、今年が21年目になります。その間、登録者数の増減はありましたが、現在約150人のボランティア登録者がいます。

- 日時 / 6月24日(土) 午後1時～4時
- 場所 / 合人社ウェンディひと・まちプラザ (広島市まちづくり市民交流プラザ) 北棟4階ギャラリー
- 内容 / 人材バンク登録者による発表会 (ミニセミナー、実演、体験による活動紹介) 登録者同士による情報交換 活性化委員会の活動紹介

その多くが個人登録者で、日々のボランティア活動もひとりまたはその都度知人に手助けを頼み活動が続いています。

この交流会は、登録者同士が知り合い、互い

- 参加費 / 無料
- 対象 / 人材バンク登録者、登録を検討中の方
- 申込み・問合せ 広島市まちづくり市民交流プラザ (合人社ウェンディひと・まちプラザ) 電話：(082) 545-3911 ファックス：(082) 545-3838
- 申込期限 / 4月18日(火)

に支え合って活動をするつながりを広げることを目的に、年に1回開催しています。興味がある方、参加をお待ちしています。



▲紙芝居「広島市まちづくりボランティア人材バンク物語」より

あなたらしく、ボランティア活動をはじめませんか！ 「まちづくりボランティア人材バンク」への登録をお待ちしております。

自分の知識や技術、特技を生かして「ボランティア活動がしたい」、「地域社会の役に立ちたい」…しかし、いざ何かしたいと思っても、どこで、どのように、活動の場を探せばいいのかわからないとお悩みの方はおられませんか。

そんな方におすすめの制度が「まちづくりボランティア人材バンク」です。活動の第一歩は「私はこんなボランティアができます」という情報を公開することです。そうすれば、あなたの力を必

要とするグループや団体から、「教えてほしい」「お手伝いしてほしい」というお声がかかるかもしれません。

広島市まちづくり市民交流プラザ(合人社ウェンディひと・まちプラザ)が、ボランティアを依頼したいグループ・団体とボランティア登録者の仲介を行い、双方の希望に合う活動の場をコーディネートさせていただきます。

ボランティア登録に必要なものは、あなたのや

る気だけです。仕事や趣味等で得たあなたの知識や技術を、ぜひ「まちづくり」にお役立てください。

なお、まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申込は受けておりません。また、依頼があれば、紹介させていただくシステムです。登録された方に、もれなく活動の場をお約束するものではないことを予めご了承ください。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは… ☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838



(公財)広島市文化財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm(ふむふむ)」を設けています。

この基金は、心豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は、学識経験者などで構成する運営委員会が公開審査し、決定します。

これまでの助成団体や助成額等については、(公財)広島市文化財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

HP <http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

第20回助成事業「成果発表会」& 第21回助成事業「公開審査会」

市民のみなさんの自主的なまちづくり活動を助成する基金Hm(ふむふむ)。広島の未来をつくる魅力あふれる活動の成果発表やこれから新たに取り組もうとしている提案事業の審査を行います。どなたでも観覧できます。

- 日時 第20回成果発表会 5月13日(土) 午前10時～正午
第21回公開審査会 5月13日(土) 午後1時～午後5時
- 場所 合人社ウェンディひと・まちプラザ (まちづくり市民交流プラザ) 北棟4階ギャラリー
- 問合せ (公財)広島市文化財団 ひと・まちネットワーク部管理課事業係 電話082-541-5335

寄付のお願い

ひと・まち広島未来づくりファンドHm(ふむふむ)は、市民・企業・行政が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支え育てていくために設けられた基金です。私たちの住む広島のまちをよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店/別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口

※手数料は自己負担となります。
※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。
※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日(休日の場合は翌営業日)に基金へ寄付させていただきます。



基金の愛称「Hm(ふむふむ)」とは…【ひと(Hito) まち(Machi) 広島(Hiroshima) 未来づくり(Mirazukuri) ファンド】の略で、頭文字(HM)をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。